

夏に燃える高校生インターハイ展望!

今月の「NTNL」
PFUブルーキャッツ

月刊バレーボール

月刊バレーボール8月号 1947年11月15日第3種郵便物認可 第72巻第8号 2018年7月14日発行(毎月15日発行・発売)

8

AUGUST
2018

スペシャル付録
全チーム
全選手掲載!
東海総体
選手名鑑



サマーヒーローになる!

インターハイ直前!
注目チーム&選手大特集
洛南高、金蘭会高
水町泰杜(鎮西高)
石川真佑(下北沢成徳高) etc.

いよいよ世界バレーへ!!!
《全日本男子》
柳田将洋主将の決意
「プロバレーボールとして生きる」
石川祐希インタビュー

《全日本女子》
ニューヒロイン誕生の予感
黒後愛

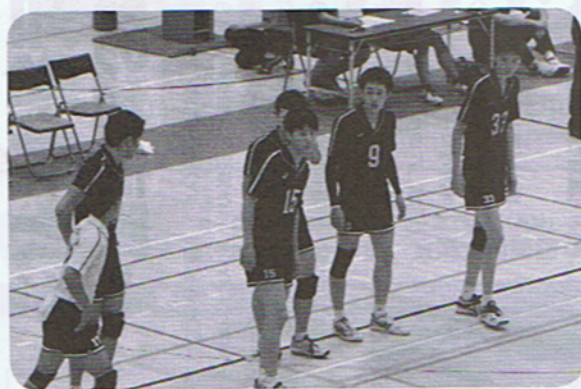
ニッポン全国バレーどころ
インターハイの舞台
《三重》大特集!

全日本男子ニュースター
西田有志(ジェイテクトSTINGS)
帰郷に完全密着

ヴィアティン三重、パナソニックES津男子・女子
皇學館高、津商高、三重高
名將インタビュー
このチームに学べスペシャル
松阪工高

チームトピックス

東日本インカレで
会場を熱く盛り上げた
チーム、気になった
チームをご紹介します!!



No.1 国士館大 男子

勝利まであと少し…「勝てる試合でした」

国士館大vs.筑波大の1回戦第1試合は、強豪どうし、白熱の試合となった。

第1セット、国士館大が笠原真吾、熊切拓巳の活躍により25-16で先取する。

続く第2セットは大接戦となるも、国士館大の勢いが勝り、30-28でこのセットも連取。

第3セット、「体力的にも厳しくなり、パフォーマンスが落ちてきた」(笠原主将)というように、筑波大の高いブロックにつかまってしまう。ミ

スも相次ぎ、第3、4セットを落としてしまい、勝負はフルセットへ。

運命のファイナルセット。互いの意地がぶつかり合い、20-20を超える展開に。最後は筑波大の意地が上回り23-25で敗れた。

試合後、「相手の勝負強さが上でした。それだけです」(横沢民男監督)と振り返り、笠原主将も「勝てる試合でした」と悔しさを口に

No.2 東京学芸大 男子

崖っぷちの状態から追い上げるも、あと1点届かず

勝てばベスト8進出。相手は春季リーグでストレート負けを喫した筑波大。リベンジに燃える東京学芸大だったが、第1セットは先にセットポイントを奪うも逆転負け。第2セットはミスで崩れてしまいあとがない状態に…。

第3セット開始前、杉山敏基主将はチームメイトに「サプレッションは返っている。ミスはなくして勝負しよう」と声をかけた。すると、吉田裕亮らサイド陣が躍動。第3セット、第4

セットを奪い返す。

迎えた最終セット。どちらも一歩も引かず、7-7と緊迫した展開に。しかし杉山のスパイクがアウトになり、筑波大に一気に攻め込まれ、12-15で惜敗。

「やはりミスから崩れてしまった。秋季リーグに向けてミスを減らしていきます」(杉山主将)と前を見据えた。



No.3 神奈川大 女子

悔しさを原動力にみんなが“楽しい”バレーを極める

今年の春、3部から2部に昇格。入替戦を戦うのは6季連続となった。だからこそ、格上の順天堂大を相手に、3セット目は23-25とあわやという場面まで追い詰めるなど、誰も想像しなかっただろう。

この健闘ぶりに寶積秀文監督は「今日のMVPはみんなです」と称した。続けて、「目立たないけど、影の功労者」と名をあげたの

が高橋明日香主将の存在だ。

その高橋主将は、「勝つことはもちろんですが、自分たちも楽しく、見ている人も楽しくなる『おお、すごいぞ。神大』と思われるようなチームになりたい」とまっすぐなまなざしで語る。

格上だろうが、格下だろうが勝負には関係ない。試合こそ敗れたが、1点1点に全力で喜ぶ“神大バレー”は見る者を魅了した。

Pick
up

その他ピックアップチーム

文教大 男子

監督不在の中、目指した勝利

練習は週に3日で、監督やコーチは不在。そんな中、毎日の練習に効

率よく取り組んできた文教大。主将と監督を兼任する阿部賢は「春季リーグで結果を残すことができたので、それを生かして東日本インカレも勝ちにいきましょ」と語る。惜しくも初戦敗退となってしまったが、「負けたのは悔しいけれど、内容は悪くなかった」(阿部)と手応えをつかんだ。



国士館大 女子

下級生主体のチーム「いい経験になった」

3年生の平野七菜を主将とし、下級生主体で戦った国士館大。ベスト16入りを果たした日本体大戦では「試合経験が少ないメンバーが多いので、精神的な弱さが出てしまった」と飯田周平監督が言うように、2セットを先取しながらも、逆転負けしてしまう。

それでも「いろんな選手を起用し、経験を積ませることができてよかった」と飯田監督は語った。

